



探検!

ことばの世界

大津由紀雄



大津由紀雄[おおつゆきお] 1948年東京都生まれ。現在、慶應義塾大学言語文化研究所教授。子どもはどうしてあんなに上手にことばを身につけることができるのか、その秘密を探りながら、ことばの世界のすばらしさや豊かさをひとりでも多くの人に知ってもらいたいと願っている。『岩波講座 認知科学：言語』(岩波書店・1995年・共著)などの専門書や研究論文を執筆しているが、最近では、絵本『ことばのからくり』(岩波書店・1996年・藤枝リュウジ絵)などの著作がある。

探検! ことばの世界

著者

発行者

発行所

印刷

製本

1996年12月11日 第1刷発行

大津由紀雄

©1996 YUKIO OTSU

安藤龍男

日本放送出版協会

〒150-81 東京都渋谷区宇田川町41-1

電話03-3780-3306[編集] 03-3780-3339[営業] 振替00110-1-49701

交通印刷/近代美術

芙蓉紙工

定価はカバーに表示してあります。乱丁本・落丁本はお取り替えいたします。

図<日本複写権センター委託出版物>本書の無断複写(コピー)は、著作権法上の例外を除き、著作権侵害となります。

ISBN 4-14-080298-7 C0081 Printed in Japan

江苏工业学院图书馆

藏书章

さあ、いよいよ探検の始まりだ。

探検の心構え

やあ、ことばの世界へようこそ！ わたくしが探検隊長の天津です。この本を手にとってくれたお礼に、あなたがたぶんいままで気がつかなかったすばらしい世界に招待しよう。でも、いきなりことばの世界のすばらしさって言ったって、ぴんとこないかもね。そこで、ちょっと先回りをしてその一部をちょっとのぞいてみることにしよう。

「どろぼう」ってことば知ってるよね。「ねこ」ってことばだって知ってるよね。なにをいまさらと思うかもしれないけれど、まあちょっとだけがまんして。さて、この2つのことばをくっつけてみよう。くっつけてできるのは、「どろぼうねこ」と「ねこどろぼう」という2つのことば。違いはくっつけるときの順番を変えただけだね。でも、「どろぼうねこ」と「ねこどろぼう」じゃ、大違いだ。

「どろぼうねこ」といえば、それはねこのことだ。でも、「ねこどろぼう」といえば、それはどろぼうのことだ。どろぼうねこはニャーとなくかもしれないけれど、ねこどろぼうはニャーだなんてとんでもない。

なにを当たり前のことをおおげさにさわいでいるのと思うかもしれないけれど、でもちょっと考えてごらん。あなたにはどうして「どろぼうねこ」はねこで、「ねこどろぼう」はどろぼうだということがわかるんだろう。しかも、あなただけでなく、日本語を話すあなたの友達もみんな同じようにわかるはずだ。それはいったい、どうしてなんだろう。

そんなの簡単だよ、という声も聞こえてくるね。そのわけは、「どろぼうねこ」ということばと「ねこどろぼう」ということばをいままでに聞いたことがあって、「どろぼうねこ」はねこ、「ねこどろぼう」はどろぼうを指すのに使われていたからさという声だ。いい考えだ！ でも、問題はそんなに簡単じゃないんだよ。

そこでこんどは「ワニ」と「バナナ」という2つのことばを考えてみよう。両方ともごく普通のことばだね。さて、この2つをくっつけてみよう。できるのは、「ワニバナナ」と「バナナワニ」。違いは2つをくっつけるときの順番だけだ。

でも、さっきの「どろぼうねこ」と「ねこどろぼう」とは違って、そんなことば、いままでに見たり聞いたりしたことないよね。そうであっても、「ワニバナナ」はバナナの種類で、決してワニの種類じゃない。逆に、「バナナワニ」はワニの種類で、バナナの種類じゃありえない。しかも、このこともあなただけでなく、日本語を話す人ならだれでもわかるんだ。どうしてそんなことができるんだろうか？

なるほど、そう言われてみると不思議だなあと感じてくれたら、しめたもの。その気持ちを大切に、さっそく探検に出かけよう！

目次

探検の心構え	002
--------	-----

さあ、探検に出かけよう

探検 ① 「はしをわたるべからず」[あいまいな文①]	008
探検 ② 「ここからはきものをぬぎなさい」[あいまいな文②]	014
探検 ③ 茶色い目の大きな犬を飼っている宇宙人[あいまいな文③]	020
探検 ④ おおきなかぶ[一番長い文①]	026
探検 ⑤ これはジャックの建てた家[一番長い文②]	032
探検 ⑥ バナナワニとワニバナナ[名詞と名詞をくつつける]	038
探検 ⑦ 大きな太鼓は「おおだいこ」[連濁のはなし①]	044
探検 ⑧ 「にせたぬきじる」と「にせだぬきじる」[連濁のはなし②]	050
探検 ⑨ 「それ」ってなあに？[代名詞①]	056
探検 ⑩ Can you open the window？[依頼の疑問文]	062
探検 ⑪ 敬語は日本語の専売特許？[英語の敬語]	068
探検 ⑫ ひとやすみ	074

もっと、探検しよう

探検 13	日本語をひっくり返すと英語になる? [ミラーイメージ]	082
探検 14	大阪弁は「て」抜きことば [省略①]	088
探検 15	「て」抜きと「に」抜きと that 抜き [省略②]	094
探検 16	あ、い、う、え、お、さあ、どれ入れよかな [1] [母音を入れる①]	100
探検 17	あ、い、う、え、お、さあ、どれ入れよかな [2] [母音を入れる②]	106
探検 18	あの活用表を科学する! [1] [活用①]	112
探検 19	あの活用表を科学する! [2] [活用②]	118
探検 20	あの活用表を科学する! [3] [活用③]	124
探検 21	「ら」抜きことばを科学する! [「ら」抜き]	130
探検 22	自分 [1] [代名詞②]	136
探検 23	自分 [2] [代名詞③]	142
探検 24	じゃあね!	148

あとがき..... 156

感謝のことば..... 158

装幀・本文デザイン 羽島一希
イラストレーション 高橋常政 [表紙/各タイトルページ]
早乙女民
校正 広地ひろ子



「はしをわたるべからず。」じゃあ、どこをわたろうか

「ここからはきものをぬぎなさい。」さあ、何をぬぐ？

茶色い目の大きな犬を飼っている宇宙人、を絵にかいてみよう

一番長い日本語の文ってどんな文？

バナナワニってどんなもの？

「にせだぬきじる」って何がにせものなんだろう

「それ」って何？

「窓開けられますか」と言われたら、何と答える？

なぜ日本で暮らしていると日本語が話せるようになるんだろう

i **さあ、探検に出かけよう**

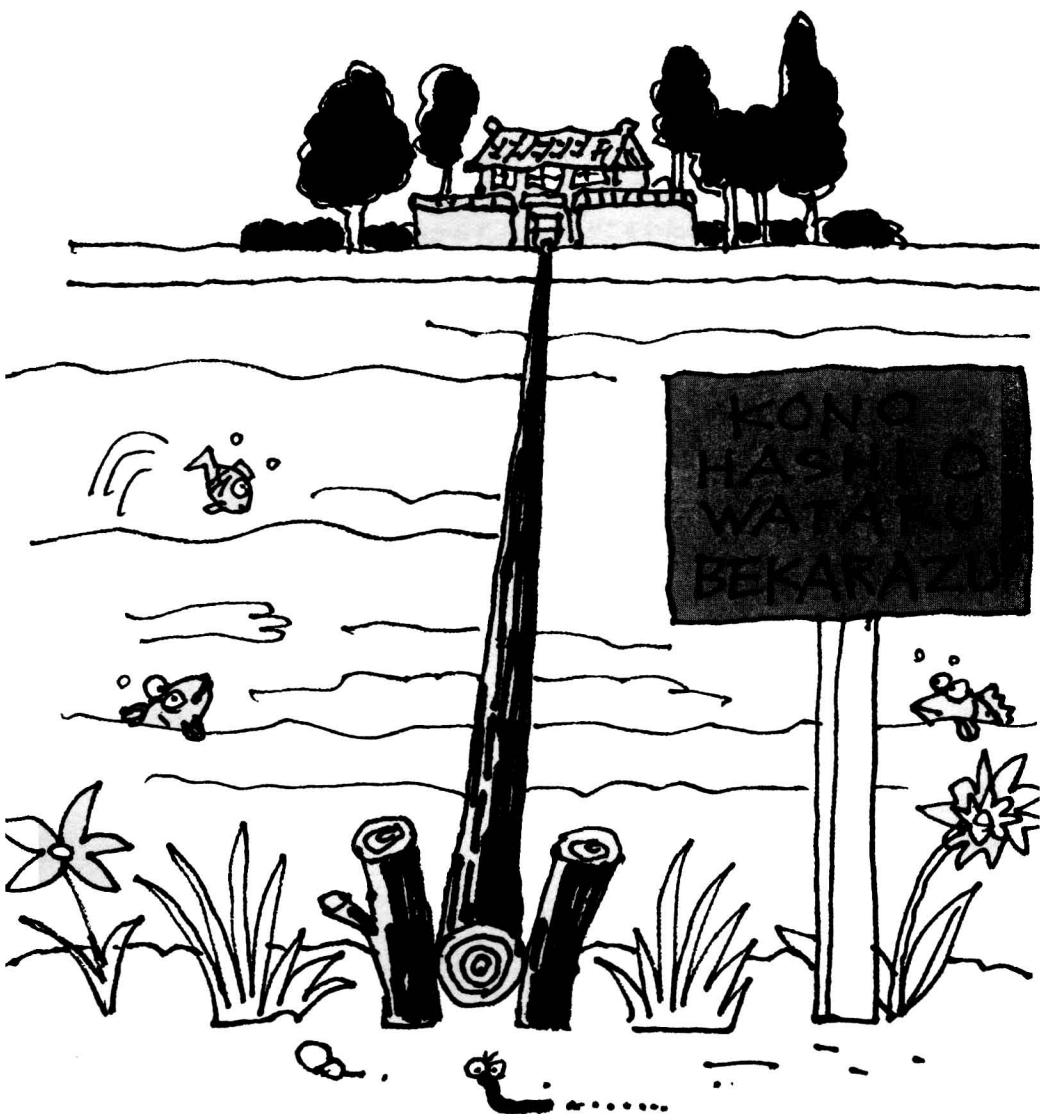
「はしをわたるべからず」

1

操縦

あいまいな文①

KAー



橋？ それとも端？

と探っていこうことばのみなさんと神秘をこれから思いますいろいろといっしょに。

おおっと、最初からおどかしてしまったかな。印刷ミスではありません。「これからみなさんといっしょにいろいろとことばの神秘を探っていこうと思います」という文をいくつかの部分に分解して、その順序を入れ替えてみたんだ。勘のよい人にはなんとなく意味がわかったかもしれないけど、それにしてもこんなのはへんな日本語だよな。

でも、へんてこではあるけど、そこに使われているのはちゃんとした日本語の単語です(まあ、だからこそ、なんとなく意味がわかった人もいたわけだけど)。そうしてみると、日本語には文を作るとき、単語の並べ方に一定の約束事があるということらしいね。ちゃんと約束事を守って、単語の並べ方を変えると、「これからみなさんといっしょにいろいろとことばの神秘を探っていこうと思います」というちゃんとした文ができあがる。ことばについてのこのような約束事が「文法」と呼ばれるものなんだ。この本では、主に日本語と英語から例を引いて、文法の仕組みや働きについていろいろと探検してみようと思う。でも、この本1冊で、すべての場所を探検しつくしてしまおうなんてことは考えずに、足の向くまま気の向くまま気楽な探検にしよう。

ところで、「文法」なんてことば聞きたくもないという人もいるだろうね。学校で習う英語の文法も国語の文法も、好きだという声はあまり聞かない。でも、せっかくこの本を手にとってくれたのだから、今回はだまされたと思ってとりあえず最初の3つの探検くらいつきあってくれないかな。絶対後悔はさせないから。

さて、話は変わるけど、一休さんのとんちばなしの中にこんな話があったのを見て知っているかな。いつも一休さんにとんちでやりこめられているだんなさんが一休さんとおしょうさんを自分の屋敷に招待した。その屋敷の前には小川が流

れているので橋を渡って屋敷に入るようになっているのだけれど、だんなさんはいつものお返しをしてやろうと、その橋のたもとに、

はしをわたるべからず

と書いた立て札を立てた。橋を渡らなければ屋敷に行くことができないと困っているおしょうさんに一休さんは、「わたしについてまんなかを歩いてきてください」と言うと、すたすたと橋を渡っていった。待ち構えていただんなさんが「立て札を見ませんでしたか」と言うと、一休さんは「ご注意くださいございました」とすまし顔で答えた。だんなさんが声を荒らげて「はしを渡ってはいけないと書いてありませんでしたか」と言うと、一休さんは「端を渡るとあぶないので、立て札を立ててくださったのでしょうか。ありがとうございました」。だんなさんはまた一本とられてしまった。

一休さんのとんちのカギを考えてみよう。「はしをわたるべからず」という文は、

橋を渡るべからず

端を渡るべからず

のどちらの意味にもとれる。「はし」という単語が「橋」にも「端」にもとれるからだ。もちろん、だんなさんは「橋」のつもりで立て札を立てたのだけれど、一休さんは「はし」が「端」の意味にもとれることに気がついて、だんなさんを煙にまいたというわけだ。

このように1つの文でありながら、2つの意味をとることができる文を「あいまいな文」と呼ぶ。これから、いろいろな種類のあいまいな文を紹介しようと思うけれど、その前に図1を見てみよう。何のへんてつもなし立方体のようにだけれど、実は2通りの見方ができるんだ。一つは図2のように、もう一つは図3のよ

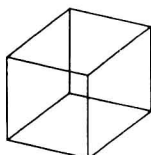


図1

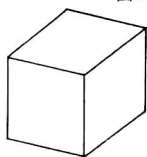


図2

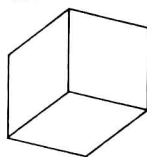


図3

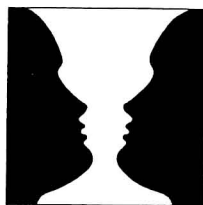


図4



健太郎は 自転車で 逃げたどろぼうを追いかけた



健太郎は自転車で 逃げたどろぼうを追いかけた



うに。このように2通りの見方ができる図形を「あいまいな図形」と呼ぶ。図4もあいまいな図形として有名なものだ。2通りの見方ができるだろうか。これらの図形は「はしをわたるべからず」のような、あいまいな文の図形版ということができる。

ことばの話に戻ろう。次の文を見よう。

3人の男の子と女の子がやってきた。

さあ、やってきたのは全部で何人だと思う？ 男の子と女の子あわせて3人、という意味にもとれるけど、男の子3人と(何人かはわからないけれど)女の子がやってきたという意味にもとれる。これもあいまいな文ということになるね。

もう一つ、同じような例をあげよう。

しっぽの長い犬と猫がなかよく遊んでいる。

2通りの意味を思いつくだろうか。

こんどはちょっと違った種類のあいまいな文を見てみよう。

健太郎は自転車で逃げたどろぼうを追いかけた。

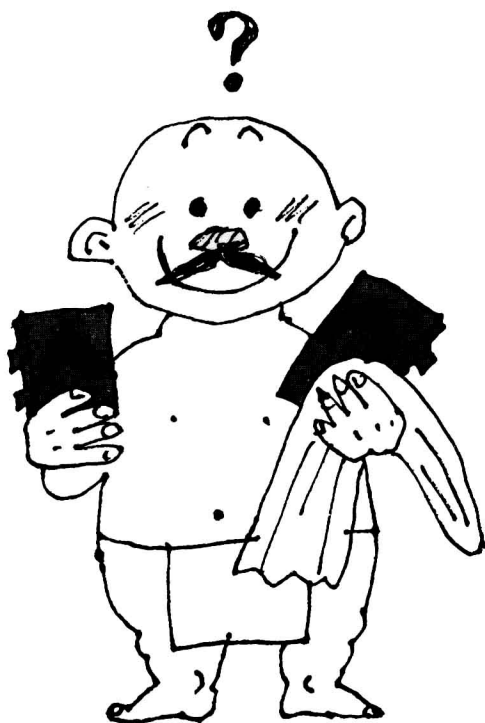
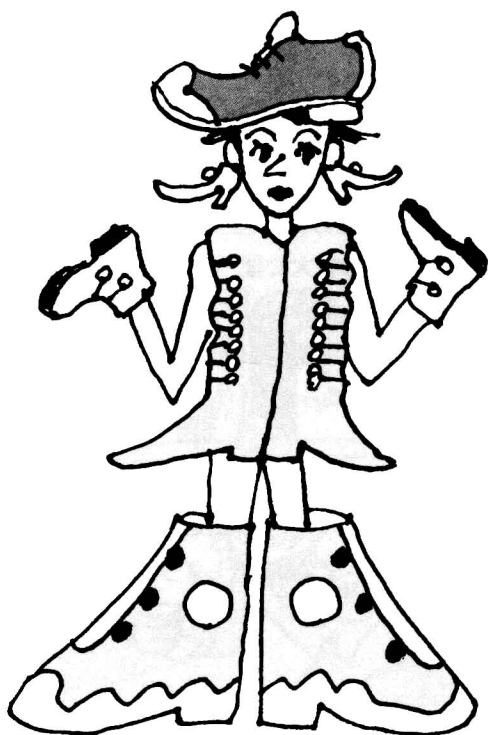
さあ、2通りの意味に気づいただろうか。わからなかった人には、ヒントを出そう。自転車に乗っていたのはだれか考えてみよう。……もうわかったかな。まず、自転車に乗って逃げたどろぼうがいて、そのどろぼうを健太郎が追いかけたという意味が一つ。逃げたどろぼうを健太郎が自転車に乗って追いかけたという意味がもう一つだ。

ここにあげた例のほかにも、まだまだいろいろな種類のあいまいな文がある。次の探検では、ここで見たのとは違った種類のあいまいな文を紹介しよう。

「ここからはきものをぬぎなさい」

2

あいまいな文②



ぬぐのは着物？ それともはきもの？

あいまいな文の世界の探検を続けよう。次の文はみんなあいまいだ。うまく見破ることができるかな？

ここからはきものをぬぎなさい。

窓からくもが見えた。

たけるはきのう麻友子がその本を買ったと言った。

太一が好きな少女があそこに立っている。

ぼくは飼い主に忠実な犬が好きだ。

では、順番に見ていくことにしよう。

ここからはきものをぬぎなさい。

この文は前に聞いたことがある人もいるはずだ。あるおじさんがお寺の本堂に入ろうとすると、さっきの文が書いてある札がはってあったので、ぎょっ！でも、そう書いてあるのだから仕方なく着物をぬいですっぱだかになって本堂に入ると、こんどは本堂にいた人たちがびっくりぎょうてん、という話だ。この話のおもしろさは、さっきの文の読み方を考えるとすぐわかる。読むときにちょっと区切り方を変えると、ほら！

ここから はきものをぬぎなさい。

ここからは きものをぬぎなさい。

札を書いた人は1番目のつもりで書いたのに、はだかおじさんは2番目だと思ってしまったのだね。間違えたおじさんもあわてものだけれど、書いた人ももう少し親切に「ら」と「は」の間にスペースを置くとか、読点（、）を打っていてくれたらよかったのにね。

次は簡単だったよね。

窓からくもが見えた。

「くも」を、空に浮かぶ「雲」ととるか、巣をはる「蜘蛛」ととるかで、2通